

2006年8月10日

**「2色パノラマルーフ+ボディパネル」の一体化を実現！
世界最大級の超大型2色回転射出プレス成形機 完成**

帝人化成株式会社

帝人化成株式会社（本社：東京都千代田区、社長：佐野 喜八郎）は、このたび千葉市にあるプラスチックテクニカルセンターに設置していたポリカーボネート樹脂の成形機を改造し、世界最大級の4軸平行制御超大型2色回転射出プレス成形機「MDIP-2100-HR2」を完成させました。

近年、自動車の窓には、軽量でデザイン設計の自由度が高いことから、ポリカーボネート樹脂の採用が急速に進んでいます。特に欧州では、2色成形によって固定窓やサンルーフなどで実用化が進んでおり、今後はさらに大型化が進むものと推測されています。

帝人化成はポリカーボネート樹脂の自動車用途への展開を目指し、2003年に株式会社名機製作所（本社：愛知県大府市、社長：下條 駿一）と共同で、世界最大級の4軸平行制御を備えた超大型射出プレス成形機「MDIP-2100-DM」（型締力33,540kN）を開発し、プラスチックテクニカルセンターに導入しました。その後、自動車窓用途など大型・高付加価値用途への展開に向けてユーザーと一体となって取り組み、既に欧州では帝人化成の素材が自動車窓の一部に採用されています。

こうした中、帝人化成はさらに市場ニーズに応えるため、名機製作所と共同で既設の成形機（「MDIP-2100-DM」）を改造することとし、約2億円を投じて本年3月に着工、7月に世界最大級の4軸平行制御超大型2色回転射出プレス成形機（「MDIP-2100-HR2」）が完成しました。独自の金型を用いるこの成形機により、既に面積で世界最大となる1.7m²クラスの「2色パノラマルーフ+ボディパネル」を一体成形する技術を完成させています。

帝人化成は、今後、大型モジュール品の成形技術開発や、自社の材料技術・金型技術・表面処理技術を駆使した商品開発に取り組み、大型・高付加価値用途の分野で早期にNo.1の地位を確立したいと考えています。

以 上